

なんじゃもんじゃ

新年明けまして
おめでとうございます。
ごさいます。



市立恵那病院
管理者 細江雅彦

市立恵那病院も7年目を迎えます。開院当初、市立病院としての目標、整備計画を策定し、市の中核病院となるべく人材を集め、育成し、そして施設の整備をして参りました。今振り返るに果たしてその目標は達成できているのか、それを確かめるためにこの春、病院機能評価を受審します。病院には多くの専門性をもった人材がいまですが、果たしてその連携は十分か、患者様のためになっているのかというとはなはだ疑問でありました。そこで気づいたことは、やはり個々はすばらしくても互いに意見の交換は十分なのかという現実が明らかになってきました。医師がトップの組織ですが、医師一人では何もできないことは明らかでありチーム医療の重要性が言われています。これが真に医療の根幹となるにはそれぞれの職種の方々の研鑽精進につきる訳です。さらなる発展のために、患者様中心の医療達成のためには現状を検証していきたいと考えます。

「基本理念」
私たちは、地域住民のために、医療倫理を守り、質の高い、信頼される、思いやりあふれる医療を展開いたします。

「基本方針」
一、患者様の権利を尊重し、患者様中心のチーム医療を展開いたします。
二、質の高い医療を提供できるように研鑽に努め地域包括医療に貢献いたします。
三、地域住民に安心され、永く親しまれ、信頼される病院を目指します。

さて、今年は、潜在看護師を発掘する試みとして看護師再就職支援セミナーを開催しました。地域に出ることとしては出前講座の要請回数が増えました。認知症の方を地域で支えるための地域連携の会の設立準備も進行中です。岩村診療所への耳鼻科医師、山岡診療所への内科総合診療医の派遣などを行いました。本年はさらにこれらを充実させ、他

の事業の企画もしたいです。基本的なところでは住民の方々に市立恵那病院を信頼して愛していただかねば何も達成できません。

基本理念にあるように思いやりあふれる医療を展開し、3つの基本方針を実践することです。地域医療は今も昔も変わりありません。変わったとすれば、高齢者や障害者が増え、その方々をどう支えるかという社会的な動きが必要になったということではないでしょうか？医療には急性期の医療だけではなく慢性期の病態、状態をどうケアしていくかという問題が新たにクローズアップされてきたのです。我々医療人もその評価方法を習得して評価をし、実践して、再評価して対策を立てるといいう、Plan, Do, See, check サイクルを繰り返すというものが求められるようになりました。総合診療という言葉が使われ始めていますが、この総合診療はまさにこのことを実践する医療であり、地域医療を実践するには必要な医療です。市立恵那病院は、この総合診療を充実させるべく広く人材を集め、地域医療に貢献しようと考えています。障害の評価、ADLの評価、社会的不利の評価、認知機能の評価、栄養状態の評価、精神状態の評価ができる総合診療医を養成し恵那市の医療に貢献していきます。よろしくご支援ご鞭撻のほどお願いいたします。



第十二回 私たちの職場を 紹介します!!



今回は、通所リハビリテーションセンター ほほ恵みの紹介をします。

『ほほ恵み』は、開所して5年が経ちました。施設内は毎日明るく活気のある利用者様やスタッフの声が飛び交っています。現在のスタッフは一〇名（センター長、理学療法士2名、看護師1名、介護福祉士6名）です。

通所リハビリとは要介護認定を受けた方を対象としたデイケア施設です。私たちの基本理念である「利用者様が心身共にリラックスでき、笑顔の耐えない雰囲気の中で心と心が通じ合うサービスをを行い、一人ひとりの声に耳を傾け、心も体も動かせる（チームサービス）を提供いたします」を基に個別リハビリや、レクリエーション、入浴、食事、排泄等の介護支援をさせていただいています。

このような職場の中で働いているとよく感じられることがあります。施設名にもなっている「ほほ恵み」＝「微笑み」は利用者様の笑顔が増えるようにとつけられました。利用者様の笑顔が他の利用者様の笑顔を生み、その笑顔が私たちの働く元気となっていることを感じることができます。この元気を利用者様に還元することで、笑顔の輪が広がり自然と明るい雰囲気を作り、一日がより充実した生活を送っていただけるよう努めています。

通所スタッフ二同



薬事委員会のご紹介

薬事委員会は年に4回開催され、委員会のメンバーは各診療科の医師、薬剤師、看護師、事務職員で構成されています。

薬事委員会の役割は、第一に、医薬品の新規採用・削除または切り替え医薬品についての審議を行うことです。医薬品は、毎年約100種類もの数が新規に発売されています。これらの医薬品を対象として、有効性・安全性・品質の観点から科学的根拠にもとづき採用の可否を検討しています。委員会で決定された内容と新規採用医薬品の紹介や添付文書の改訂などの情報は、院内へ「DI（医薬品情報）ニュース」として配布しています。

第2の役割は、薬事に関する業務の推進、改善を図ることにあります。委員会にて審議決定したことを薬剤室における薬剤業務として反映させています。この2年間で新たに開始した業務として、①院内の各部門に配置してある医薬品の数量や保管状況の定期チェック ②抗がん剤をより安全に調剤する無菌調剤業務 ③がん化学療法の医療過誤防止を目的として投与計画書適正投与の申請システムを導入し、実際の処方および患者様の検査結果と照合する監査業務 ④MRSA（多くの抗菌薬が効かない細菌）にMRSA用抗菌薬を使用に関して、新たに抵抗力がある細菌を生み出すことを予防するため、患者様毎に適した投与量の提案や検査結果等をもとに適正使用のチェック業務 ⑤がんの痛みにおける薬物の適正使用を推進するために「がん性疼痛の緩和ケアにおける薬物治療マニュアル」の発行等を行ってまいりました。

今後も、患者様の治療に貢献できるよう、より効果的な医薬品の採用の検討、及び薬事に関する業務の推進、改善を図っていきたくと考えています。

医薬品安全管理者 山田 誠史



市立恵那病院 総合防災訓練を実施しました

当院では平成21年11月28日に総合防災訓練を実施しました。実施の内容と致しましては昨年度に引き続き『大規模災害を想定した訓練』です。

想定は「13時30分東海地震が発生、恵那市は震度6で多数の傷病者が発生。また中央自動車道は倒壊し、これに伴い国道19号線通行閉鎖。県道66号線についても土砂災害及び倒木の為通行が困難な状況となっている。市立恵那病院については高次機能を保つてはいるが一部建物の損傷を受け倒壊による二次災害を免れるため緊急避難が必要である。また災害に伴い13時35分3病棟食堂より出火し天井に延焼。」という内容での実施です。

この訓練の目的は大規模災害が起こったとき職員一人一人が冷静になり、患者様の身の安全を確保し避難誘導する(避難・誘導・火災訓練)。また、被災者の方々が大多数訪れた場合でも的確な診断、指示及び処置等(トリアージ訓練)を行うことです。

当日は天候にも恵まれ屋外での訓練が可能となり、総勢102名(職員84名、ボランティア18名)の方々に参加して頂きました。模擬患者役の方々にも被災部位等の特殊メイクを施すことにより災害現場さながらの臨場感を出すことが出来ました。

この訓練をとおして、対応の不備な点が分かり、また職員一人一人がマニュアルに沿った行動を行う重要さを改めさせられました。今後とも訓練を継続し研鑽を重ね、災害が発生した時でもより多くの市民の皆様の尊い生命を守る事が出来るよう質の向上を目指します。

防災管理委員長 細江 雅彦



MR装置 更新のぞき紹介

当院では既存のMRI装置を更新し、平成21年12月下旬より3代目の新装置

「Echelon Vega」が稼動いたしました。

MRI(磁気共鳴画像診断)検査とは強力な磁石でできた筒の中に入り、磁気の力を利用して体の臓器や血管を撮影する検査です。MRIは、がんを見つけたり、がん組織の性質を見極めて治療法を決めたり、治療効果を判定するために利用されます。

新装置は、以前の装置から磁力が1.5倍と強力になります。磁力の強度が強くなればなるほど、速く、キレイな画像を得ることが出来るため、より優れた画像提供により患者様への貢献が可能になります。

以前より可能であった頭部の造影剤を使わない(非造影)血管撮像(MRA)や、MR胆管膵管撮影(MRCP)といった撮像の診断精度が格段に向上することや、以前の装置は呼吸や内臓などの動きに弱いという弱点がありました。新装置では動きの影響を抑えることができます。

また、乳房撮影専用のコイル(画像収集のための装置)を装備することにより乳房撮影も可能となり、受診していただける対象部位が増えます。さらに、救急搬送された脳梗塞初期段階の患者様でも、短時間に何種類もの画像を撮影できるようになります。脳梗塞の初期診断、初期治療にも役立ちます。

当院は恵那市の中核病院として、今後とも市民の皆様が安心して医療を受けることができるよう、最新鋭医療機器を活用して提供してまいります。

医療技術部長 深津 實

